

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立あわじ特別支援学校

活動の実際（単元名）

調理実習「ランチプレートを作ろう」

指導目標

高校生とコミュニケーションしながら、協力して調理を行う。

生徒の実態

口頭指示が通り、音声によるコミュニケーションが取れる生徒たちである。
器用ではないが、安全に気を付けて刃物などを扱える生徒たちがほとんどである。

事前学習

各学年で個別学習の時間帯に、メニューの紹介をした。

学習活動（具体的な取組）

【マカロニグラタン】
ウインナー、玉ねぎを薄切りにする。
具材を炒める。調味料を加える。
高校生の作ったホワイトソースを入れ、焼く。

【ミネストローネ】
具材を切って、炒める。
トマト缶等を入れて煮込む。

【ブロッコリーと卵のサラダ】
ブロッコリーを切る。卵の殻をむく。
特製ドレッシングを混ぜる。

【スイートポテト】
さつまいもを洗って茹でる。
さつまいもを潰して、卵黄、バター等を混ぜて4等分し表面に卵黄を塗り、焼く。

支援と留意点

・生徒たちが積極的に調理に参加できるよう、何を作りたいかを聞いて、生徒自身の希望で担当調理を決める。

・前回、コミュニケーションが取れなかったことを悔やんでいた生徒がいたため、コミュニケーションの少ないと判断したグループに教師が入りコミュニケーションの機会を作る。

・何をしたらよいか分からず、手持無沙汰な生徒には、黒板の手順を確認させ、次に何をすべきか考えさせる。

・教員が指示を出すのは極力避け、洲本高校生に働きかけて、生徒同士でやり取りをするように促す。

評価

今年度2回目ということもあり、各調理班でコミュニケーションが活発に行われていた。調理班によっては、日本史や理科等の教科の分野ごとの好き嫌いについて等、調理工程とはまったく異なる内容を話しながら調理をしている様子があった。

洲本高校生は、事前学習で同じメニューを経験しており、手際よく進めるだけでなく、特別支援学校生に対して工程を伝えることで、協力して調理することができていた。

活動の様子



洲本高校生に分量の助言をもらいながら、特別支援学校生がプレートに「ブロッコリーと卵のサラダ」を盛り付けている様子。



特別支援学校生がマカロニグラタンの表面にパン粉をまぶし、それを確認した洲本高校生がグリルプレートに載せていく様子。

事後学習

各学年で感想文を書く機会を持ち、振り返りを行った。また、一緒に調理をした洲本高校生にメッセージを書くことで、楽しかった交流を思い出す機会になった。

成果と課題

昨年度の反省を踏まえ、今年度は「書道」「フードデザイン」「美術」の3教科での共同学習を各2回実施した。複数回を同一メンバーで行うことで、顔見知りになり、コミュニケーションの促進が見られた。特別支援学校からの共同学習参加者は、全員希望者であり、積極的に活動に参加することができている。

課題は、フードデザインに希望者が偏りがちであり、他の2教科の参加希望者を増やすことである。また、特別支援学校の授業に洲本高校生が参加することは、教育・福祉系進学希望者の授業見学を除いて実施されていない。特別支援学校の授業で交流及び共同学習をする方法が課題である。